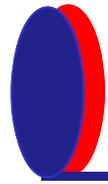


行動計画テーマ5関連：  
再生可能エネルギービジネスに関する  
事業・資金スキームの検討

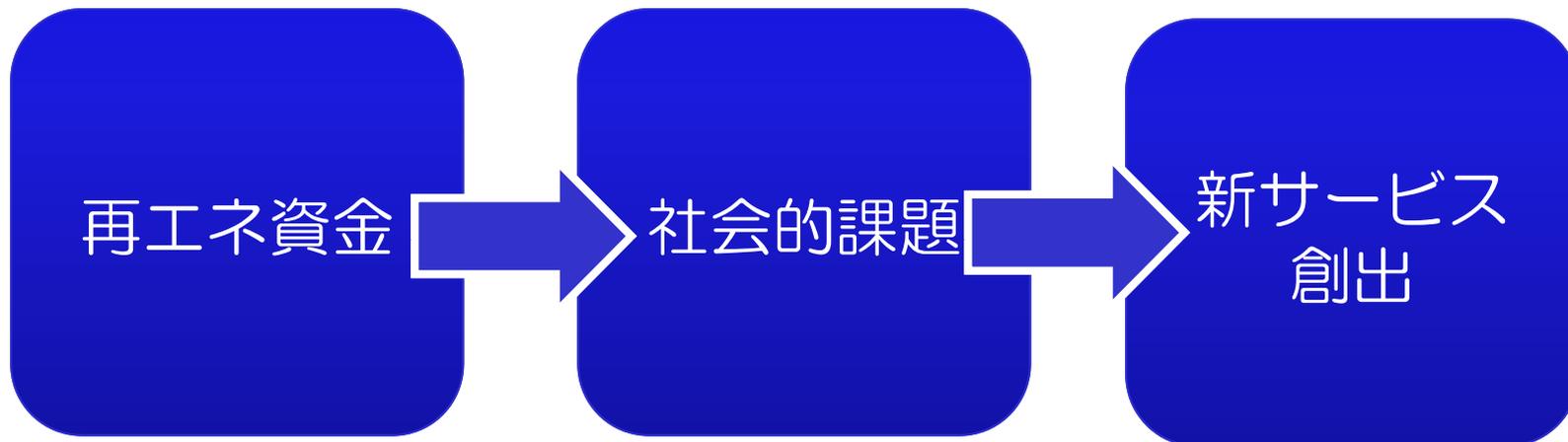
2012年8月

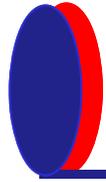
みずほ情報総研 株式  
会社



## 薩摩川内市における再エネの役割

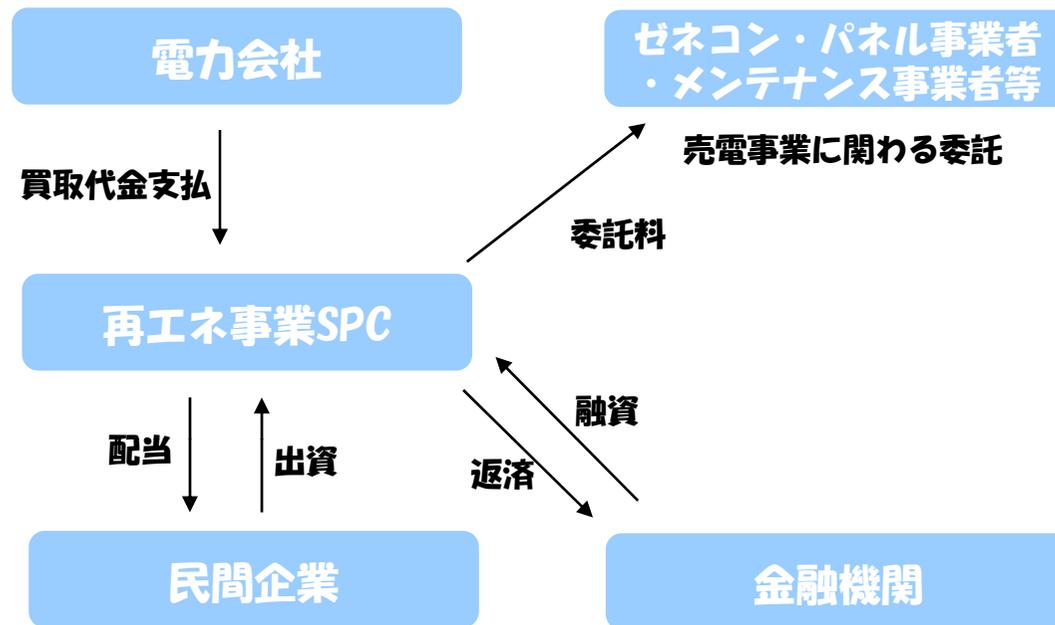
- 薩摩川内市における再エネの役割の1つとして、『新たな資金の獲得』という役割がある
- 本ペーパーは、この資金を活用し、新たなサービスを創出し、薩摩川内市の抱える社会的課題を解決することが可能という仮説を検証することが目的

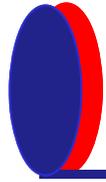




## 再エネビジネスの事業性（ビジネススキーム）

- 再生可能エネルギー関連ビジネスを実施する場合の一般的なスキームとして、特定目的会社（SPC：Specific Purpose Company）の形で実施することが多い





## 再エネビジネスの事業性（太陽光発電の事業性）

### ■ 概要

- ✓ 薩摩川内市の遊休地を活用し、メガソーラーによる発電事業実施を想定

### ■ 設備規模

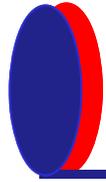
- ✓ 土地：20ha
- ✓ 発電規模：10MW

### ■ 費用

- ✓ 初期費用：35億円
- ✓ 年間経費：1.1～2.3億円

### ■ 収益性

- ✓ 売電収入：3.9～4.2億円
- ✓ ネットキャッシュフロー：0.1～2.9億円

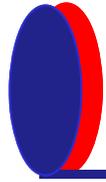


## 事業・資金スキームの検討

- 実現性の高い事業を実施するためには、**現実的な資金調達スキームを構築**することが重要なポイントとなる
- また、事業により得られた利益を**薩摩川内市の抱える課題解決に振り向けることが可能なスキーム**に落とし込むことも重要なポイントである
- ここでは、これらを実現するためのスキーム案を提示する。

### 【注意】

- 本スキームの実現性については、一定程度の法的裏づけについては検討してあるものの、具体化のためにはさらに詳細な検討が必要である。



# 事業・資金スキーム案

- 薩摩川内市の基金を用いて再エネ事業を行うSPCに出資を行い、FITを活用し配当として得られた資金を市が別会計で管理し、新サービスへ資金拠出していく。

